

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営 1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念はある。地域を意識したものには至っていない。	○	現場の声をまとめて、形にしたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、迷った時は理念（1番の元）に戻って考えたり判断している。それを日常的にスタッフに伝えている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議で話題になるよう努めている。参加者が少ないのが悩みである。	○	引き続き運営推進会議で話題として取り上げたり、認知症サポーター養成講座開催をきっかけに交流や話をする場を持ちたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	立地的に、住宅地や商店街から離れているので難しい。気軽に寄っていただけるよう努めているが、入り口が分かりにくいこともあってなかなかできていない。隣の工場の方や公園の方とは話をしたり、道を聞かれることはある。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお知らせはいただける関係。敬老会の招待もいただいたが、入居者さん自身がなじみがない場所での大勢の人との関わりを不安に感じ、お断りした。地域の盆踊り等参加したいがトイレや駐車場の課題があり実現していない。スタッフで草取り参加。		

岐阜県 グループホーム ファミリー（1号館）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議では地域の方にお困りな事はないか尋ねている。かかりつけ医を通じての相談がたまにある。現場としてはそうした話題をするまでには至っていない。	○	引き続き運営推進会議や認知症サポーター養成講座を通じて、具体的に何ができるか相談していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はよく理解している。改善点のミーティング、会議の定期開催開始した。昨年度よりスタッフも自己評価に参加いただく様にし、自分たちの振り返りや求められていることの確認、自由に提案できる機会になるよう努めている。まだまだ義務的事務的な取り組みと考える方もみえる。	○	やらされ感でなく自分たちの振り返りや気づきの機会であることを周知していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告は実施。そこからなかなか話が広がらない。	○	報告は分かりやすくする。皆さんに相談したい内容をポイントが分かる様に伝える。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	1月に1回以上は誰かが担当課におじゃましている。ホームだけにとどまらず、地域の情報交換も速やかにさせていただけるのでありがたい。	○	引き続きおじゃまする。情報交換にとどまらず、具体的な動きにつながるようにしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	関係知識等については、専らホーム他の介護支援専門員から収集している。数年前に成年後見人制度について相談を受け、相談窓口への連絡等したことがあった。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	県の集団指導や県GH協議会会合にて学んだ。管理者から現場に伝達をしている。	○	定期的にミーティングや会議が開催できるようになったので、その際に内部での勉強会をしたい。

岐阜県 グループホーム ファミリー（1号館）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の問い合わせや申し込みの時点から説明するよう心がけている。入居当日にも説明している。その他不安や疑問があった場合は、その都度電話等でも対応している。分かりやすく伝えることができているかはホームとして点検が必要と感じている。	○	ただ説明するだけでなく、分かりやすくかつ安心いただけるように伝えられるようにしたい。説明に関わる者で1度確認したい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情をわがままととらえないようにしてきた。速やかに改善し、その内容はご本人家族に報告している。苦情対応の第3者委員さんをお願いしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	管理者中心に、特に体調についてこまめに家族に報告している。心配がある場合は、変わりがなくても様子を報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも何でも言うことができるよう努めている。あらためて言うのはやはり言いづらいご様子。電話連絡中や面会時に遠慮しておっしゃることがほとんどである。お受けした内容は速やかに対応し報告している。	○	事業所としては、何でも言ってくださいと常日頃伝えているが、ご家族はやはり遠慮される。引き続きあんきに言うっていただける関係を作っていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも意見を言う機会を作っている。月に1回程度のユニットのミーティングや全体会議で意見が反映されている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	運営者や管理者と相談して決めている。		

岐阜県 グループホーム ファミリー（1号館）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者の認識と現場の認識に温度差がある。	○	引き続き、現場から実情を伝えていきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修については研修内容により勤務として参加できる。計画については立てていない。職場内のトレーニングについては直属の管理者中心に行なっているが、その都度であり、段階に応じての対応にまではなっていない。	○	認知症に関わる研修については、明確な計画の下実施できるようにしてほしい。現場での学びについては、管理者と運営者の役割分担を明確にして、その都度でなく段階に応じた指導ができるようにしてほしい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH協議会の全体会や支部会に積極的に参加している。参加については、運営者、管理者、介護支援専門員に限定されやすい。昨年度は事例発表を現場のスタッフさんの勉強も兼ねてさせていただいた。	○	現場のスタッフも参加できるよう検討する。支部会にて相互のホーム訪問の話が出ている。実現できるよう当ホームも協力し、現場のスタッフも参加できるようにしたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、いつでも話を聞いてくれる。休憩室の整備も速やかに実施くださる。が、各個人のストレスの度合いや原因についての違いに沿ってのケアまでは難しい。	○	各自のストレスの耐性を把握し対応する必要があると思う。結果の○×のみにこだわらず、経過も評価してほしい。共に考える関係にしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、各自の勤務状態の把握に努めている。何か課題や問題が発生した時の指摘や把握は速やかにされている。	○	指摘や注意と合わせて、意欲を持ち続けるために、日常的に頑張りを言動で認めたり、各自に任せることも大事にしてほしい。

岐阜県 グループホーム ファミリー（1号館）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	毎回努力している。が、緊急での相談が多く、行く所がない等切実なケースの場合は、とりあえず来ていただき、安心安全な生活空間の提供をさせていただく。その後相談の場合もある。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	毎回努力している。緊急のケースでもまずは安心いただけるよう配慮している。また、直接の面接以外でも電話等でも対応している。それでも行き違い他発生することがある。	○	相談窓口を明確にする必要がある。その担当者が勤務上不在の場合の手当ても一緒に考える。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接をした者の意見と運営者の意見のすりあわせが難しい。	○	運営者と初回面接をした者の意見と現場の意見も合わせて総合的に話し合いができるようにしたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	努力している。緊急のケースが多く、時間をかけながらの利用が困難。また運営上の理由から困難な場合もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できることはやっていただくよう努めている。が、入居者さんの高齢化や重度化から、介護の度合いが増している現状もある。また、お世話して入居者さんが喜ぶことをよしとする場面が時々ある。	○	定期ミーティングや日頃の現場で、全面的にお世話することがケアでないことを確認していく。

岐阜県 グループホーム ファミリー（1号館）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	努力している。が、ご本人と家族の関係がボロボロになって当ホームにようやくたどりつく家族も多い。ご本人に対していい感情で向き合えない家族の気持ちも分かる。まずは家族に休んでいただき気持ちに余裕も持てるよう関わっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	努力している。が、長年の関係の悪化の場合は修復は大変困難である。ご本人が、落ち着いて穏やかに過ごされれば家族の多くも穏やかになれる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努力している。が、様々な事情や認知症の症状により、馴染みの人や場所とすでにトラブルを起こされている場合もよくある。またよかれと思ってもご本人が混乱し不穏になる場合もある。人それぞれで難しい。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	努力している。が、生活の場であるからこそ、仲良しグループだけではすまない現実がある。認知症の症状からのトラブルも時々あるので、難しいと感じている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	努力している。他のサービスを利用の方は在宅のケアマネジャーさんにお声をかけさせていただいているので、その後のご様子等はケアマネジャーさん通じて必要に応じて伺っている。		

岐阜県 グループホーム ファミリー（1号館）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々努力している。その人の思いや希望をだけに沿っては、心身機能低下の懸念が発生する場合が多い。その思いを受け止めながら、他の事を提案もすることもある。	○	定期ミーティングを活用し、その方にとって今1番ベターな方法は何かを考えていきたい。その方の要望を結果実現できなかったとしても、お互いの思いが伝わる様な関係作りをしていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々努力している。1回の面接や入居当初では分からなかった情報が、ご一緒する中で見えてくる。それをなかなかスタッフで周知したり、ケアに活かすことがスムーズに実施できない。	○	計画作成担当者と介護支援専門員が協力し、介護保険切り替え時期及びモニタリング時に盛り込めるようにする。その内容は、ミーティング時に伝達できるようにする。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日実施している。個人記録等に記録し、管理者が中心に把握している。懸念事項等発生した場合は速やかに報告している。またミーティングにおいても周知するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	努力している。計画作成担当者が、各自の要望を伺い取りまとめて作成している。関係者全員が一同に会することは難しい。	○	かかりつけ医や当ホーム看護師さんにも計画書を届ける。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ミーティングでも見直しを実施している。		

岐阜県 グループホーム ファミリー（1号館）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録や連絡帳に記録し、スタッフ全員が情報を共有している。個人ファイルを整備した。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	思いはあるがなかなか難しい。安全確保は万全か。人員確保やその際の勤務の扱いをどうするか。運営者の許可も必要になる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	なかなか難しいと感じている。地域の図書館で本を借りてきている。年に1回きてくださる演芸ボランティアさんは定着してきた。	○	ホームとして受身で待つのではなく、探して行くことも行なう。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	要望があれば極力応援したい思いはある。今のところそうしたケースはまだない。実現するに場合は、具体的に誰がその時援助するか、費用はどうするか等様々な課題も発生すると感じている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ホームからの先方への訪問や運営推進会議での情報交換の段階。	○	今後該当ケースがあった場合は、速やかに相談したい。

岐阜県 グループホーム ファミリー（1号館）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	実施している。多くの方は当ホームの協力医にみていただいているが、疾患や今までのつながりから他の病院にかかっている方もみえる。協力医さんは往診もくださるので助かっている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当ホームから車で15分以内に、神経内科開業医さんと精神科クリニックさんがある。開業医さんとクリニックさんは協力体制ができています。そのため、症状の状態によって、協力医さん、神経内科さん、精神科クリニックさんと相談ができるのでありがたい。	○	家族によっては、認知症を受け入れること、増してや受診することに強い拒否や悲しみを感ずる。それも当然の感情と思いながらも適切な処置を受けるためでもあることを伝えていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職とは気軽に連絡が取れる。連携がとれており健康管理ができています。	○	引き続き、各自の専門性を大事にしながらも、その方にとって何が大事かを職域を越えて協働できる関係作りをしていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際は、できるだけ早いうちから面会するようにしている。必要に応じて、病棟さんにご本人の日常生活のポイントを伝達している。退院ができるだけ急にならないよう、家族初め関係者に働きかけている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	努力している。今回、リスクの高い状態で退院された方については、家族、協力医、ホームの3者で事前にそのリスクを話し合い、別途書面にて今後について合意をさせていただいた。現場にも緊急時の対応について周知されている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	常日頃の体調のチェックだけでなく、その方の体調のバロメーターもスタッフで周知し、毎日確認している。懸念のある場合は速やかに医療職、家族に報告相談をしている。緊急時の対応も現場で周知している。ミーティングでも確認している。		

岐阜県 グループホーム ファミリー（1号館）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移る先の担当者さんに、直接及び文書にて情報の提供をしている。移った以降の問い合わせにも対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常的に気をつけている。現場ではスタッフがお互いに注意できる関係である。必要に応じて、管理者が直接指示したり、ミーティングで確認している。個人ファイルは、見えないように保管している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常日頃、思ったことをあんきに言っていただけよう心がけている。思いや希望にはできるだけ沿うようにしている。実際には、実現困難な場合もあり難しさを感じる。	○	思いや希望が必ずかなう訳ではないが、一緒に考えた、一緒に工夫したという経過も大事にしていければと思う。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力沿うようにしている。ホームだけでは実現困難な場合や心配が伴う場合は、家族にも相談している。運営上、人員の配置等で、いつでもの対応は困難である。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洗濯しやすい等だけでなく、ご本人の好みの衣類も持ってみえる方もいる。理容美容は、得意なスタッフが行なったり、ボランティアさんに入ってもらうこともある。以前は街中に出かけていたが、重度化しているので、市井でやっていただくことがご本人、先方にも負担が大きくなった。		

岐阜県 グループホーム ファミリー（1号館）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常日頃、それぞれの入居者さんの要望を伺ったり、季節の話題から食べたい物を話し合ったり、新聞広告をみながら話し合ったりしている。準備については台所がせまいことや皆さんがあまりされないのでもたに行なっている。	○	夕食の時間が早いので、その後少しのおやつ等も出したい。体調との兼ね合いも一緒に検討する。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	当初自由にしていた。現在は、健康上の理由からおすすめできなくなっている。おやつや飲み物については、10時15時に提供しているので、好みも反映されるように工夫している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	記録をとり、常に状態の把握とそれに合った対応を心がけている。課題が発生した時は、その都度スタッフで話し合い、その時1番いい方法を実践し、必要に応じて修正している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	会社の方針もあり曜日と時間を決めて入浴いただいている。重度化しており、介助の度合いが増している。安全確保のためスタッフが3名いる時間帯（入浴介助、整容、全体の見守り）で対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間は基本は決めているが、その人その人のペースで休んでいただいている。居室で昼寝をされたり、休まれるのを様子をみながら援助している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方に合った趣味（ぬりえ、脳トレの計算、ビデオ鑑賞他）がいつでもできるよう援助している。様子を見ながら、洗濯物に関わる手伝いを一緒にしていただく。玄関先での日光浴では通る人との談笑もしている。散歩、ドライブ。花フェスタ記念公園外出。	○	各部所内だけでなく、法人全体でレクの充実（デイはレクが得意なので）の提案があり、相互の協力もしていく予定。

岐阜県 グループホーム ファミリー（1号館）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今はほとんどの方が個人で居室でのお金の管理はしていない。管理がしっかりできない、手元にあることで逆にご本人が気にして不穏になることがあったため。必要な時は、ホームの経費で立替している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り玄関先でのひなたぼっこや近隣への散歩を行なっている。立地的に車がないと出かけられないため、安全な移動の確保やトイレのこと等課題がたくさんあるので困難を感じている。	○	引き続き、1日1回は外の空気に触れるように働きかける。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	できるだけ協力し実現したい思いはある。が、現実には、スタッフの配置や家族の事情があり、困難さを感じている。5月、ホームから、行ける方は花フェスタ記念公園に行き楽しんできた。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は耳が遠い方が多く、スタッフで聞いて欲しいと言われる。以前は手紙を書く方がみえたが、今はほとんどない。	○	ぬりえは多くの方が楽しんでみえるので、今年は年賀状（字を書くことが苦手でも色ぬりは自信を持ってできると思われる）を作ってはどうか。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	常日頃、あんきに来ていただけるよう心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、1部スタッフ、介護支援専門員にとどまっている。以前研修後に資料配布はした。	○	運営者も含めた研修（内部でもいいので）の実施をする必要がある。

岐阜県 グループホーム ファミリー（1号館）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開所当時からのホームの方針として、鍵はかけずきた。（夜間の防犯での施錠は実施）鍵をかけることの弊害については、運営者の1部、管理者、1部スタッフ、介護支援専門員の理解にとどまっている。出て行かれる方にはその思いに沿いながらついていくことを基本にしている。	○	運営者も含めた研修（内部でもいいので）の実施をする必要がある。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常日頃配慮している。玄関はセンサーでチャイムが鳴るようにしているので、入居者さんに関わらず誰の出入りの時も鳴る。居間を中心に居室の配置をしており、できるだけ完全な死角ができないよう工夫した。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	出来るだけ実現したい思いはある。が、安全確保が難しい方が知らないうちに他者の部屋に入られて、その方にとっては危険な物を持ち出される心配もする。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	管理者がリスクマネジメントの研修に参加し、文書で内容を伝達した。ヒヤリハットや事故報告書の作成を当たり前とし、関係者で確認する習慣になっている。防災については今まで機会が少なかった。薬に関しては看護師の助言もあり処方箋の整備が進みわかりやすくなった。手すりの設置等の工夫。	○	ヒヤリハット、事故報告書の分析、まとめ。（随分前に実施したのみ）具体的に逃げるための避難訓練の継続と積み重ね。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜勤帯に入ることが多い男性スタッフ1名は訓練済み。他のスタッフについては、文書での確認。他の部所の訓練済みの者や看護師にも協力願う体制はある。	○	運営者と協働で、特に1名体制の時間帯に入るスタッフから、自信持って落ち着いてできるような訓練参加方法を考え、実施開始する必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内で具体的に動き出したところ。地域との連携までには至っていない。	○	引き続き訓練を継続する。災害時の準備物資についても検討しておきたい。運営推進会議で提案していく。

岐阜県 グループホーム ファミリー（1号館）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日常的に心がけている。管理者が家族に連絡、報告、相談している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	各スタッフが、いつもの体温や血圧等について知っている。気が付いた時は、管理者に報告し、看護師にも相談する。記録に残し必要に応じて医師に提示している。現場は、口頭及び記録で申し送るよう努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の助言もあり処方箋の整備をした。いつでもどのスタッフでも確認できるようになった。懸念がある場合は1人で判断せずに、管理者や看護師、必要に応じて、医師や薬局に確認するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄の記録をつけている。おやつに牛乳を使ったり、朝食時に乳酸飲料を出している。どうしても排便ない場合は、医師に相談の上服薬いただいている。便秘についてはあらためてスタッフで勉強することはしていない。	○	ミーティング機会を利用し、便秘についてスタッフで勉強会をすると思う。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	日常的に実施できるように努めているが不十分と感じている。見守りのみでできる方については、必要な物を自分で使える様に配慮している。法人の提案で、食事前に口腔体操の実施を開始した。全員の方が参加するのは難しいと感じている。	○	口腔ケアの具体的な援助方法についての再度の周知と徹底が必要と思われる。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の必要に応じた量を出している。水分はなかなかとっていただけないので声をかけている。個人の記録に記載し、スタッフ間で申し送るようにしている。懸念があるときは、スポーツドリンクや口当たりのいい物、ご本人の好物を提供する等工夫している。		

岐阜県 グループホーム ファミリー（1号館）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	実践している。当法人では感染がなくても地域で感染があれば、情報を収集し、法人全体で周知し速やかに対応するようにしている。市担当課からもFAXで情報提供くださるのでありがたい。県のGH協議会からも連絡いただけるのでありがたい。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常日頃注意し手洗い、その他衛生管理に努めている。開所当初から運営者から賞味期限は厳格に守るよう伝えられている。調理器具等の消毒殺菌用品を、法人として準備くださった。食中毒警報等の情報が市担当課からFAXされるようになってありがたい。	○	食材の保管場所の確保の再検討をしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関出たところに椅子を設置し、玄関先でも話ができるようにしている。花や畑が好きなスタッフが、季節や入居者さんの好みを考え、花や緑を植えている。玄関少し離れたベンチで、面会にみえた家族が一休みされていることもあった。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物そのものが古いため、運営者に相談しながらリフォームや修繕している。建物内が構造上暗くなりやすいので、その際に色等配慮できるよう心がけている。居間には季節の花を飾るようにしている。間場所間違いが置きやすい所には目印を貼っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物構造上、ゆったりしたスペースはなかなか取れない。居室を有効に利用いただいたり、玄関前のスペース、法人の他の建物を利用している。		

岐阜県 グループホーム ファミリー（1号館）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や入居後、ご本人の要望や家族の思いに沿っていつでも持ち込んでいただけるようにしている。入居時に新しいものを購入する方も割りと多い。その場合もそれが使うことで馴染みの物になるようにと思って接している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常日頃注意している。温度調整は、エアコンのタイマー機能つかったりこまめに調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを利用して歩いていただくようにしている。	○	個々の方の状態に合わせて方法を取り決める。それをケアプランに落とせるようになるといい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分でできることはやっていただくよう働きかけ、失敗をできたら未然に防ぐ、もし失敗してもご本人が必要以上に恥ずかしい思いをしない援助については、まだスタッフ間や運営者とばらつきがある。	○	ミーティングや会議の場で、確認する機会を持ちたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	洗濯物の干し場があるのでできる方には見守りのみで干しや取り込みをしていただける。花や緑をふんだんに植えてあるので、眺めるだけでなくみずやりもしていただけるようにしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

岐阜県 グループホーム ファミリー（1号館）

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

平成13年に開所し、あっという間に6年です。当初より、ホームは入居者さんの家であることを大事にし、何かあったときはすぐにご相談するよう努めてきました。また、ご家族の思いも大事にさせていただくよう努力しております。